

石川県におけるシベリアイタチの 3 例目の記録

内 藤 恭 子・近 藤 崇

石川県白山自然保護センター

Third record of Siberian weasel (*Mustela sibirica*) in Ishikawa Prefecture.

Kyouko NAITOU・Takashi KONDO

Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa

はじめに

シベリアイタチ (*Mustela sibirica*) はイタチ科の食肉類で、シベリア、中国など東アジアに広く自然分布する。日本には対馬にのみ自然分布し、1930 年頃に移入されたものなどが分布拡大し近年では石川、岐阜、愛知を東端として主に西日本に外来種として分布している (今泉, 1960; 出口, 2019; 鈴木 2013)。チョウセンイタチとも呼ばれていたが、2021 年より和名はシベリアイタチに変更されている (環境省, 2020; 環境省, 2021; 日本哺乳類学会, 2021)。本州、四国、九州に分布する在来種のニホンイタチ (*Mustela itatsi*) と似るが、体の大きさや尾の比率、顔の模様などで識別される (出口ほか, 2023)。石川県ではこれまでに、2015 年に小松市で保護が 1 件 (出口, 2019), 2022 年に白山市の民家での捕獲が 1 件 (北陸環境衛生株式会社 HP) の合計 2 件の確認記録がある。

今回、イタチ属の哺乳類のロードキル個体を回収した際、シベリアイタチのオスが確認されたため報告する。

調査方法

調査個体は、イタチが死んでいるとの連絡を受け 2024 年 5 月 30 日に白山市橋爪町の路上にて採集した。外部生殖器からオスと判定した。すでに死後数日経過しており、腐敗した状態であった。

シベリアイタチと識別するため、頭胴長、尾長を計測して尾率 (尾長/頭胴長×100) の算出、顔の模様や頭骨の写真撮影を行い先行研究のデータと比較した。

なお、本個体は腐敗していたため、体重は測定不能であった。

表1 ニホンイタチとシベリアイタチのオスの計測比較表

	参照元	頭胴長 (cm)	尾長 (cm)	尾率 (%)
1 体		36.6	21.2	57.9
シベリアイタチ	今泉 (1960)	35.5~38.0	19.0	50~53
	川口 (2006)	33.1~40.6	16.6~21.6	46.8~59
ニホンイタチ	今泉 (1960)	29.7~37.0	12.3~16.3	41~49
	川口 (2006)	28.9~32.1	12.4~14.2	41.3~47.1

(今泉, 1960; 川口 2006 引用)

結果

調査個体の尾率は57.9%であった(表1)。ニホンイタチのオスの成体の尾率は41-49%, シベリアイタチでは50-53%(今泉, 1960)であり, 一部重複する値の個体がいるとの報告があるものの(川口, 2006), 今回の個体は重複範囲を大幅に上回っていることからシベリアイタチと判定した。

次に体色・顔の模様を比較(出口ほか, 2023)したところ, 鼻・下顎部に白い斑が見られたことからシベリアイタチの特徴と一致した(表2, 写真1, 2)。

また, 頭骨最大長は64mmであり, シベリアイタチの数値の範囲内であった(阿部, 2000)。歯でも比較を行い, 第3小臼歯は内側の咬頭が大きくその縁のへこみが深い傾向があり, 大白歯は内側が幅広く, くびれが顕著という特徴からシベリアイタチの特徴と一致した(表3; 写真3, 4, 5; 図1)。

まとめ

シベリアイタチは石川県での情報はまだ少ないものの, 今回県内3例目となる確認記録となった。在来のニホンイタチと見分けがつきにくいため確認数は少ないもののすでに白山市以西で一定程度



写真1 全身の様子



写真2 顔のアップ

表2 体色および顔の模様比較表

種名	体色	目の周辺	顔面
今回の個体	明るい褐色がかった山吹色	濃い茶色	鼻周辺・下顎部が白い
シベリアイタチ	明るい褐色がかった山吹色	胴体と同色	鼻周辺・下顎部が白い
ニホンイタチ	暗褐色	灰色	下顎の白斑の境界が不明瞭で汚白色

(出口ほか, 2023参照)

表3 頭骨比較表

種名	頭骨最大長 (mm)	上顎の歯の部位	
		第3小臼歯	大白歯
今回の個体	64.0	近心舌側(内側)の咬頭は大きく近心縁のへこみは深い傾向がある	内側は幅広く, その外側でのくびれは顕著
シベリアイタチ	52~64	近心舌側の咬頭は大きく近心縁のへこみは深い傾向がある	内側は幅広く, その外側でのくびれは顕著
ニホンイタチ	41~61	近心舌側の咬頭は小さく近心縁のへこみは弱い	相対的に小さく内側は狭い

(阿部, 2000参照)

定着している可能性があり、今後より東側でも確認されることも考えられる。本種は日本の侵略的外来種ワースト100に指定されており、ニホンイタチとの競合や雑種などが心配されているため、今後注視していく必要がある。

謝辞

イタチの死亡個体を発見し、連絡をくださった岡田美智江氏にお礼を申し上げます。

引用文献

- 阿部永 (2000) 増補版日本産哺乳類頭骨図説. 北海道大学出版会, 115-117, 247-250.
- 出口翔大 (2019) 北陸3県における陸棲哺乳類相の比較. 福井市自然史博物館研究報告, 66, 51-56
- 出口翔大・中田都・鈴木聡・久米田賢治 (2023) ニホンイタチおよびチョウセンイタチの尾および顔面の模様の比較. 福井市自然史博物館研究報告, 70, 97-106.
- 北陸環境衛生株式会社HP (2022) シベリアイタチ (チョウセンイタチ) 捕獲 (http://www.heh.co.jp/pages/41/detail=1/b_id=218/r_id=119/) (2025年1月27日現在)
- 今泉吉典 (1960) 原色日本哺乳類図鑑. 保育社, 170-171.
- 環境省 (2020) シベリアイタチの希少鳥獣指定について (<https://www.env.go.jp/council/12nature/y125-23b/900434670.pdf>) (2025年1月27日現在)
- 環境省 (2021) 狩猟鳥獣の指定の変更及び対象狩猟鳥獣の捕獲等の禁止の解除について (<https://www.env.go.jp/content/900517116.pdf>) (2025年1月27日現在)
- 川口敏 (2006) 香川県産 *Mustela* 属2種の事故死体の同定と分布. 哺乳類科学 46, 35-39
- 国立環境研究所侵入生物データベース (<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10180.html>) (2025年1月27日現在)
- 日本哺乳類学会 (2021) 世界哺乳類標準和名リスト (<https://www.mammalogy.jp/list/index.html>) (2025年1月27日現在)
- 落合啓二 (2011) 千葉県産イタチ (*Mustela* 属) の外部計測値に基づく同定. 千葉中央博自然誌研究報告 11: 15-18

鈴木聡 (2013) 最近の福井市におけるイタチ類 (*Mustela* sp.) の生息記録. 福井市自然史博物館研究報告, 60, 31-36.



写真3 左：調査個体,右：ニホンイタチ



写真4 本個体の歯



写真5 ニホンイタチの歯

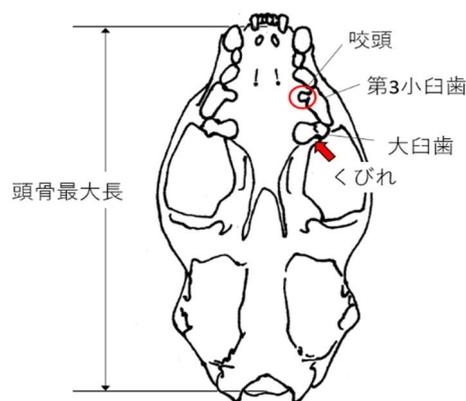


図1 各部の名称